

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow バージョン 1.2 インストール ガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow の概要	4
新機能.....	5
章 2: OpenManage Integration with ServiceNow のインストール	6
互換性マトリックス.....	6
必要なユーザー権限.....	7
インストールの必要条件.....	9
MID サーバーのインストールおよび設定.....	9
OpenManage Integration with ServiceNow のダウンロード.....	9
インストール、アップグレード、アンインストールのスクリプト.....	10
ServiceNow インスタンスにアップデートセットをアップロードして、ServiceNow に OpenManage Integration をインストールする.....	11
MID サーバーへの OpenManage Integration connector.JAR の展開.....	12
章 3: OpenManage Integration with ServiceNow へのアップグレード	13
バージョン 1.0 から 1.2 への OpenManage Integration のアップグレード.....	13
バージョン 1.1 から 1.2 への OpenManage Integration のアップグレード.....	15
章 4: OpenManage Integration with ServiceNow のアンインストール	17
章 5: 追加リソース	19
章 6: Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス	20
章 7: Dell EMC へのお問い合わせ	21

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow の概要

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow は、エンタープライズレベルの組織がそのサービスと運用管理プロセス間のギャップを埋めることで、ビジネスクリティカルな運用の効率を向上できるよう支援します。これは、ServiceNow プラットフォーム内のネイティブアプリケーションであり、OpenManage Enterprise (インフラストラクチャ管理機能) と ServiceNow (サービスおよび運用管理機能) の間にシームレスなインターフェイスを提供します。OpenManage Enterprise は、1対多のシステム管理コンソールで、PowerEdge モジュラー型インフラストラクチャ、ラック、タワーサーバーに包括的で統一されたライフサイクル管理を実現します。OpenManage Integration は、OpenManage Enterprise と ServiceNow 間でデバイスインベントリー情報とイベントを転送する自動化機能を提供します。これにより、サービス管理チームは、ビジネスサービスと IT インフラストラクチャの正常性に影響を与える問題を迅速に検出、診断、解決することができます。

また、OpenManage Integration with ServiceNow は SupportAssist Enterprise と統合されており、ServiceNow インスタンス内から Dell EMC サポートチームに対して開かれているサポートケースを表示し、追跡できます。SupportAssist Enterprise は、ハードウェアの問題が実際に発生する前にプロアクティブに検出し、テクニカルサポートチームに PowerEdge サーバー、ストレージ、ネットワークデバイスについて警告するアプリケーションです。この統合により、運用およびサービス管理チームは PowerEdge サーバーに対して生成されたテクニカルサポートチケットを管理し、インシデントから解決までのチケットの進捗状況を追跡できます。

Dell EMC OpenManage Enterprise

OpenManage Enterprise は、Dell EMC サーバ、シャーシ、ストレージ、エンタープライズネットワーク上のネットワークスイッチの包括的なビューを提供するシステム管理および監視アプリケーションです。Web ベースの 1 対多システム管理アプリケーションである OpenManage Enterprise には、次のような機能があります。

- データセンター環境でのデバイスの検出および監視。
- デバイスのグループ化とデバイスの管理。
- ハードウェアインベントリーおよびコンプライアンスレポートの表示
- デバイスの正常性の監視。
- デバイスファームウェアバージョンの管理、およびシステムアップデートとリモートタスクの実行。
- システムアラートおよびアラートポリシーの表示と管理。

Dell EMC OpenManage Enterprise の詳細については、[Dell.com/OpenManageManuals](https://www.dell.com/openmanage/manuals) の「Dell OpenManage Enterprise」ページにあるマニュアルを参照してください。

Dell EMC SupportAssist Enterprise

SupportAssist Enterprise は、Dell EMC サーバー、ストレージ、ネットワークデバイスのテクニカルサポートを自動化します。デバイスを監視し、発生する可能性のあるハードウェアの問題をプロアクティブに検出します。ハードウェアの問題が検出されると、SupportAssist Enterprise はテクニカルサポートのサポートケースを自動的に開き、Eメール通知を送信します。

SupportAssist Enterprise の詳細については、[Dell.com/ServiceabilityTools](https://www.dell.com/serviceabilitytools) の「Serviceability Tools」ページで入手できるマニュアルを参照してください。

OpenManage Integration with ServiceNow の主な機能

- ネイティブの ServiceNow アプリケーションのサポート：OpenManage Integration with ServiceNow は、ServiceNow インスタンスにインストールして展開できます。
- OpenManage Enterprise の統合
 - CMDB 統合：
 - 1つまたは複数の OpenManage Enterprise インスタンスから ServiceNow Configuration Management Database (CMDB) への PowerEdge サーバーおよびシャーシのインベントリー詳細の定期的およびオンデマンド同期。

- 1つまたは複数の OpenManage Enterprise インスタンスから ServiceNow CMDB にインポートされたすべての PowerEdge サーバーおよびシャーシの構成アイテム (CI) の自動作成。
 - イベント管理とインシデント管理の統合：
 - 1つまたは複数の OpenManage Enterprise インスタンスから ServiceNow インスタンスへのイベントの定期的およびオンデマンド同期。
 - ServiceNow の CI とのイベント (重要および警告) およびアラートの自動マッピング。
 - 重要および警告アラートに対するインシデントの自動作成。
- SupportAssist Enterprise の統合：監視対象サーバーの1つまたは複数の SupportAssist Enterprise インスタンスから ServiceNow インスタンスにサポート ケースをインポートし、対応するサポート ケースのインシデントを自動的に作成します。
- OpenManage Enterprise SupportAssist プラグインの統合：監視対象サーバーの1つまたは複数の SupportAssist プラグイン インスタンスから ServiceNow インスタンスにサポート ケースをインポートし、対応するサポート ケースのインシデントを自動的に作成します。
- OpenManage Enterprise および SupportAssist Enterprise アプリケーションによって提供される REST API を使用して、OpenManage Integration はサーバーおよびシャーシのインベントリ情報、イベント、Dell EMC サポート ケースを取得します。

トピック：

- [新機能](#)

新機能

- インベントリ、イベント、サーバー正常性、SAE プラグイン ケースの収集、重大度ベースのインシデントの作成、個別の OME 接続プロファイルに対するイベントの確認のスケジュールされたジョブの時間間隔の設定のサポート。
- 個々の SAE 接続プロファイルに対して SAE ケース収集のジョブをスケジュールする時間を設定するためのサポート。
- デバイス、正常性、作成されたイベントまたはアラートの概要、作成されたインシデント、テクニカル サポート ケースの数を示すダッシュボードのサポート。
- サーバーまたはシャーシのデバイス イベント同期のサポート。
- Orlando、Paris、Quebec バージョンの ServiceNow のサポート。
- サーバーのコンポーネント正常性モニタリングのサポート。
- サーバー ライセンスの詳細のサポート。
- 複数の OpenManage Enterprise SupportAssist プラグインとの統合のサポート。
- 構成管理データベース (CMDB) の統合：
 - 詳細なシャーシ インベントリの定期的かつオンデマンド同期 (例：シャーシ電源装置、シャーシ ファン リスト、シャーシ RAID コントローラーなど)
 - シャーシおよび関連するシャーシ コンポーネントの構成アイテム (CI) と CI 関係の自動作成
 - PowerEdge シャーシ情報を格納するために標準提供の `cmdb_ci_chassis_server` を使用
- PowerEdge シャーシのサポート：PowerEdge FX2、PowerEdge M1000e、PowerEdge VRTX、PowerEdge MX7000
- イベント管理プラグインなしでアップデート セットのアップロードをサポート。

OpenManage Integration with ServiceNow のインストール

OpenManage Integration を ServiceNow インスタンスにインストールするには、次の手順を実行します。

- Dell EMC サポート サイトから OpenManage Integration インストーラー パッケージをダウンロードします。
- OpenManage Integration アップデート セットをアップロードして、OpenManage Integration をインストールします。
- MID サーバーに connector.jar ファイルを展開し、OpenManage Enterprise および SupportAssist Enterprise からインベントリー情報、アラート、Dell EMC サポート ケースを取得します。
- ServiceNow で OpenManage Enterprise と SupportAssist Enterprise のインスタンスを設定します。

以前の OpenManage Enterprise with ServiceNow バージョン 1.2 をアンインストールするには、次を参照してください: [OpenManage Integration with ServiceNow のアンインストール](#)、p. 17

OpenManage Enterprise with ServiceNow バージョン 1.1 から 1.2 にアップグレードするには、次を参照してください: [OpenManage Integration with ServiceNow へのアップグレード](#)、p. 13

トピック：

- [互換性マトリックス](#)
- [必要なユーザー権限](#)
- [インストールの必要条件](#)
- [MID サーバーのインストールおよび設定](#)
- [OpenManage Integration with ServiceNow のダウンロード](#)
- [インストール、アップグレード、アンインストールのスクリプト](#)
- [ServiceNow インスタンスにアップデート セットをアップロードして、ServiceNow に OpenManage Integration をインストールする](#)
- [MID サーバーへの OpenManage Integration connector.JAR の展開](#)

互換性マトリックス

表 1. 互換性マトリックス

サポート対象ソフトウェア、オペレーティング システム、ハードウェア	バージョン
ServiceNow リリース	オランダ、パリ、ケベック。 https://www.docs.servicenow.com/ を参照してください。
Dell EMC OpenManage Enterprise	3.4 以降
Dell EMC SupportAssist Enterprise	2.0.x および 4.0.x
ブラウザ	ServiceNow でサポートされているブラウザの詳細については、 https://www.docs.servicenow.com/ にある ServiceNow のマニュアルを参照してください。
オペレーティング システム - MID サーバーを展開および設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows Server 2016 • Windows Server 2019 • Red Hat Enterprise Linux 8 • Ubuntu 18
<ul style="list-style-type: none"> • PowerEdge サーバー • PowerEdge シャーシ 	OpenManage Integration with ServiceNow を使用して管理されているサポート対象の PowerEdge サーバーの詳細については、次を参照してください。

表 1. 互換性マトリックス（続き）

サポート対象ソフトウェア、オペレーティングシステム、ハードウェア	バージョン
<ul style="list-style-type: none"> VxRail および XC Series のハイパーコンバージドインフラストラクチャ（HCI）アプリケーションの PowerEdge サーバー <p>メモ: ServiceNow での監視を有効にするには、OpenManage Integration with ServiceNow ライセンスがターゲット PowerEdge サーバーにインストールされている必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『Dell EMC OpenManage Enterprise バージョン 3.5 サポート マトリックス』の「サポート対象の Dell EMC PowerEdge サーバー」セクション (Dell.com/OpenManageManuals)。 『SupportAssist Enterprise サポート マトリックス』の「サポート対象サーバー」セクション (Dell.com/ServiceabilityTools)

必要なユーザー権限

OpenManage Integration with ServiceNow アプリケーションは、ServiceNow インスタンスに次のユーザー ロールのセットをインストールします。

- x_310922_omisnow.OMISNOW Operator (OpenManage Integration オペレーター ロール)。
- x_310922_omisnow.OMISNOW User (OpenManage Integration ユーザー ロール)。

適切なロールと権限が ServiceNow ユーザーに割り当てられており、OpenManage Integration with ServiceNow アプリケーションが使用できることを確認します。必要に応じて、ServiceNow で追加ユーザーを作成し、そのユーザーに OpenManage Integration オペレーター ロールとユーザー ロールを割り当てることができます。

表 2. 必要なユーザー権限

OpenManage Integration with ServiceNow の機能	ServiceNow 管理者	OpenManage Integration with ServiceNow オペレーター	OpenManage Integration with ServiceNow ユーザー
ServiceNow への OpenManage Integration with ServiceNow アップデートセットのアップロード	許可	未許可	未許可
OpenManage Integration with ServiceNow の connector.jar を MID サーバーに展開する	許可	未許可	未許可
OpenManage Enterprise 接続プロファイルの作成、変更、または削除	許可	許可	未許可
SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの作成、変更、または削除	許可	許可	未許可
OpenManage Enterprise インスタンスからのサーバーおよびシャーシのインベントリ詳細の取得	許可	許可	未許可
OpenManage Enterprise からのすべてのサーバーおよびシャーシのイベントの取得	許可	許可	未許可
SupportAssist Enterprise からのケースの取得	許可	許可	未許可
ServiceNow でのアプリケーション ログの表示	許可	未許可	未許可

表 2. 必要なユーザー権限 (続き)

OpenManage Integration with ServiceNow の機能	ServiceNow 管理者	OpenManage Integration with ServiceNow オペレーター	OpenManage Integration with ServiceNow ユーザー
OME インベントリ収集、OME イベント収集、サーバー正常性の収集、SAE プラグイン ケースの収集、SAE ケースの収集間隔のスケジュール	許可	許可	未許可
OpenManage Enterprise から取得されたイベントに対して作成されたアラートとインシデントの表示	許可	許可	許可
アラートとインシデントの更新	許可	許可	未許可
アラート管理ルールの有効化または無効化	許可	未許可	未許可
アラート関連ルールの有効化または無効化	許可	未許可	未許可
ServiceNow からの OpenManage Integration アプリケーションの削除	許可	未許可	未許可
アラート関連ルールの作成または編集	許可	未許可	未許可
OME および SAE グループへのインシデントの割り当て	許可	許可	未許可
変換マップの有効化と無効化	許可	許可	未許可
パラレル キュー、基本インベントリ要求あたりのデバイス、詳細なインベントリ要求あたりのデバイスの構成	許可	許可	未許可
インシデントが作成された後の OME イベントの確認	許可	許可	未許可
作業メモにアプリケーション ログを記録する	許可	許可	未許可
インバウンドの入力ビューの表示、設定、削除	許可	未許可	未許可
ステージング テーブルの表示、構成、削除	許可	未許可	未許可
システム スケジューラー	許可	未許可	未許可
OpenManage デバイス 正常性同期	許可	許可	未許可
SupportAssist プラグインのケース同期	許可	許可	未許可

表 2. 必要なユーザー権限 (続き)

OpenManage Integration with ServiceNow の機能	ServiceNow 管理者	OpenManage Integration with ServiceNow オペレーター	OpenManage Integration with ServiceNow ユーザー
ダッシュボードの表示と編集	許可	許可	許可 (表示のみ)

インストールの必要条件

OpenManage Integration with ServiceNow のインストールを開始する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- サポート対象の ServiceNow インスタンスのバージョンが使用できる。サポートされているソフトウェアとハードウェアの詳細については、[互換性マトリックス](#)、p. 6 を参照してください。
- MID サーバーがエンタープライズ環境にインストールされ、設定されている。
- 環境変数 (JAVA_HOME) は、MID サーバーがインストールされている場所に設定する必要があります。トラストストアに証明書のチェックを保存するには、JAVA_HOME 環境変数が必要です。
- ServiceNow での監視を有効にするには、OpenManage Integration with ServiceNow ライセンスがターゲット PowerEdge サーバーにインストールされている必要があります。詳細については、『*Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow ユーザーズガイド*』の「*OpenManage Integration with ServiceNow のライセンス要件*」セクションを参照してください。
- ServiceNow インスタンスに OpenManage Integration をインストールして構成するための ServiceNow 管理者権限があることを確認します。

メモ: ServiceNow アプリケーションでアップデートセットをアップロードするには、イベント管理プラグインを有効化する必要はありません。

MID サーバーのインストールおよび設定

OpenManage Integration with ServiceNow では、管理、計装、検出 (MID) サーバーをデータセンターにインストールして設定する必要があります。MID サーバーは、次のオペレーティングシステムで実行されているシステムにインストールする必要があります。MID サーバー対応のオペレーティングシステムとバージョンの詳細については、[互換性マトリックス](#)、p. 6 を参照してください。

- Windows
- Red Hat Enterprise Linux
- Ubuntu

MID サーバーにより、ServiceNow インスタンスと OpenManage Enterprise/SupportAssist Enterprise アプリケーション間の情報 (デバイスインベントリ、アラート、オープンサポートケースの詳細) の通信と交換を容易に実行できます。MID サーバーがデータセンターネットワークを介して OpenManage Enterprise アプリケーションと SupportAssist Enterprise アプリケーションにアクセスできることが重要です。

複数の接続プロファイルがある場合は、OpenManage Enterprise および SupportAssist Enterprise の接続プロファイルの数に基づいて、MID サーバーを設定します。OpenManage Enterprise プロファイルごとに 1 つの MID サーバーを使用することをお勧めします。

データセンターでの MID サーバーのダウンロード、インストール、設定の詳細については、<https://docs.servicenow.com/> で ServiceNow マニュアルを参照してください。

OpenManage Integration with ServiceNow のダウンロード

Dell EMC PowerEdge サーバのサービスタグを手元に置いておきます Dell サポート Web サイトのすべてのサポートにアクセスするには、サービスタグを使用することをお勧めします。これにより、適切なバージョンのソフトウェアをプラットフォームにダウンロードすることができます。

OpenManage Integration with ServiceNow インストーラーパッケージをダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. Dell.com/support にアクセスします。
2. 次のいずれかの手順を実行します。
 - Dell EMC PowerEdge サーバーのサービスタグを入力し、[検索] を選択します。

- [すべての製品を参照] > [サーバー] > [PowerEdge] を選択し、PowerEdge サーバーのモデルを選択します。
3. サーバのサポートページで、[ドライバおよびダウンロード] を選択します。
 4. [カテゴリ] リストから、[システム管理] を選択します。
サポート対象の OpenManage Integration with ServiceNow のバージョンが表示されます。
 5. 次のいずれかのアクションを実行して、ファイルシステムにインストーラー パッケージをダウンロードします。
 - [ダウンロード] をクリックします。
 - チェック ボックスを選択して、ソフトウェアをダウンロード リストに追加し、[ダウンロード済みの選択ファイル] をクリックします。

ダウンロードした `DELL_EM_C OpenManage_Integration_1.2_ServiceNow_<Build#>_A00.tar.gz` ファイルには、アップデート セット (.xml ファイル)、connector.jar ファイル、readme ファイル、インストール ガイド、エンド ユーザー ライセンス 契約 (PDF ファイル) が含まれています。また、`DELL_EM_C OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts` フォルダーには、特定のインストール、アップグレード、アンインストールの手順を実行するためのスクリプトが含まれています。ServiceNow インスタンスへの OpenManage Integration アプリケーションのインストールの詳細については、[OpenManage Integration with ServiceNow のインストール](#)、p.6 を参照してください。

インストール、アップグレード、アンインストールのスクリプト

このトピックでは、インストール、アップグレード、アンインストールに使用するスクリプトに関する詳細と使用法について説明します。

インストール スクリプト

使用するスクリプト： `installation_permissions.js`

1. テーブル `sysauto_script` と `cmdb_ci_outofband_device` の読み取り、作成、アップデート、削除の権限が付与されていることを確認します。
2. イベント管理プラグインがインストールされている場合は、テーブル `em_alert_management_rule` の作成およびアップデートの権限が付与されていることを確認します。
3. テーブル `sysevent` の読み取り権限が付与されていることを確認します。
4. テーブル `sys_report_color` と `pa_chart_color_schemes` の作成、削除、アップデートの権限が付与されていることを確認します。
5. ハードウェア ルール `cmdb` 識別子の基準属性で、`ip_address` 属性を使用して識別子エントリがアクティブ化されていることを確認します。

バックグラウンド スクリプト

バックグラウンド スクリプトは、ユーザーがイベント管理プラグインを後でアクティブ化してイベント管理の ServiceNow の Out Of Box ソリューションを使用するときに実行されます。バックグラウンド スクリプトは次の手順で実行します。

使用するスクリプト： `BackgroundScriptToCreateAlertManagementRules.js`

1. テーブル `em_alert_management_rule` の作成とアップデートの権限が付与されていることを確認します。
2. アラート管理ルール「重要アラートのインシデント作成」、「警告アラートのインシデント作成」を作成します。

アップグレード スクリプト

使用するスクリプト：

`upgrade_permission_1.1-1.2.js`
`upgrade_permission_1.0_afterinstall_1.2_updateset.js`
`Upgrade_records_1.1-1.2.js`
`Upgrade_records_1.0-1.2.js`

1. これらのスクリプトは、新しいアップデートとともに、次に使用可能な ServiceNow バージョンへのアップグレードに役立ちます。
2. `upgrade_permissions_1.1-1.2.js` は、1.1 から 1.2 へのアップグレードのために、テーブルの読み取り、作成、アップグレード、削除の権限を提供します。
3. `upgrade_permission_1.0_afterinstall_1.2_updateset.js` は、1.2 アプリケーションの updateset のインストール後に使用されます。

4. `upgrade_records_1.0-1.2.js` は、すべてのサーバー、接続プロファイル、プロパティレコードをバージョン 1.0 から 1.2 に移行するのに役立ちます。
5. `upgrade_records_1.1-1.2.js` は、すべてのサーバー、接続プロファイル、プロパティレコードをバージョン 1.1 から 1.2 に移行するのに役立ちます。

アンインストールスクリプト

使用するスクリプト：

```
uninstall_deletePermissionScript.js  
uninstall_deleteAllrecords.js  
uninstall_DeleteRecords.js  
uninstall_all_backout.js  
stop_jobs.js  
uninstall_SelectAction.js
```

1. ServiceNow をアンインストールする前に、jar ファイル、CI、割り当てのルール、ログファイル、関連レコードを削除します。その後、スケジュールされたジョブを停止し、`uninstall_backout.js` スクリプトを使用してアップデートセットを削除します。
2. `uninstall_deletePermissionScript.js` は、テーブルからレコードを削除する権限を付与します。
3. `uninstall_deleteallrecords.js` と `uninstall_DeleteRecords.js` は、すべてのレコードをテーブルから削除します。
4. `stop_jobs.js` は、スケジュールされたジョブのアクティブ化解除に役立ちます。
5. `uninstall_backout.js` は、ServiceNow インスタンスからシステムアップデートの xml を削除します。
6. `uninstall_SelectAction.js` は、複数のバックアウト問題のオプションを選択する際、ユーザーが問題に直面したときに**現在の状態を維持**することを選択するのに役立ちます。

ServiceNow インスタンスにアップデートセットをアップロードして、ServiceNow に OpenManage Integration をインストールする

ServiceNow インスタンスにアップデートセットをアップロードする前に、Dell EMC サポート サイトから OpenManage Integration with ServiceNow のインストーラー ファイルをダウンロードして抽出してあることを確認してください。詳細については、次を参照：[OpenManage Integration with ServiceNow のダウンロード](#)、p. 9

OpenManage Integration with ServiceNow アップデートセットを ServiceNow インスタンスにアップロードするには、次の手順を実行します。

1. テーブルに対して必要な権限を有効にするには、`installation_permissions.js` スクリプトを実行します。スクリプトを使用して権限を有効にするには、次の手順を実行します。
 - a. スクリプトが含まれる `DELL_EMC_OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts` フォルダーの解凍先であるファイルシステムに移動します。
 - b. `installation_permissions.js` を開き、内容をコピーします。
 - c. ナビゲーションフィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] を選択します。
 - d. [スクリプトの実行] ボックスに `installation_permissions.js` の内容を貼り付け、スコープに [グローバル] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。
2. ServiceNow インスタンスで、ナビゲーションフィルターに [System Update Sets] と入力し、[取得したアップデートセット] を選択します。
[[取得したアップデートセット]] ページが表示されます。
3. [関連リンク] で、[XML からアップデートセットをインポートする] をクリックします。
4. [[XML のインポート]] ページで、[ファイルの選択] をクリックし、OpenManage Integration with ServiceNow のインストーラーファイルの解凍先であるファイルシステムに移動して、`Dell_EMC_OpenManage_Integration_1_2_ServiceNow_UpdateSet.xml` アップデートセットを選択します。
5. [アップロード] をクリックします。
アップロードが正常に完了すると、アップデートセットが [[取得したアップデートセット]] ページにリストされ、状態列の下に [ロード済み] と表示されます。
6. [名前] 列で、[Dell EMC OpenManage Integration アップデートセット] をクリックし、右上隅にある [アップデートセットをプレビュー] をクリックします。
[[アップデートセットのプレビュー]] ダイアログボックスに進行状況が表示されます。アップデートセットのプレビューが正常に完了して、ダイアログボックスが閉じると、ステータスが [プレビュー済み] に更新されます。
7. ServiceNow インスタンスに対してアップデートセットの変更を確定するには、右上隅にある [アップデートセットを確定] をクリックします。

[[アップデート セットの確定]] ダイアログ ボックスに進行状況が表示されます。アップデート セットの確定が正常に完了して、ダイアログ ボックスが閉じると、アップデート セットの [状態] フィールドが [確定済み] に更新されます。

アップロードされたアップデート セットは、[システム アップデート セット] > [取得したアップデート セット] の下に一覧表示されます。アップデート セットの転送方法の詳細については、<https://www.docs.servicenow.com/>にある ServiceNow のマニュアルを参照してください。

MID サーバーへの OpenManage Integration connector.JAR の展開

OpenManage Enterprise と ServiceNow、SupportAssist Enterprise と ServiceNow 間での通信を有効にするには、管理、計装、検出 (MID) サーバーに connector.jar を展開する必要があります。

MID サーバーに connector.jar を配置する前に、次の点を確認してください。

- ServiceNow のアプリケーション スコープを Dell EMC OpenManage Integration に変更していること。
- ServiceNow ユーザーに必要なユーザー権限があること。 [必要なユーザー権限](#)、p. 7 を参照してください。
- お使いの環境に MID サーバーがインストールされ設定されていること。
- Dell EMC サポート サイトから OpenManage Integration with ServiceNow インストーラー ファイルをダウンロードして解凍していること。詳細については、 [OpenManage Integration with ServiceNow のダウンロード](#)、p. 9 を参照してください。

OpenManage Integration connector.jar ファイルを展開するには、次の手順を実行します。

1. ServiceNow から connector.jar をインポートするには、次の手順を実行します。
アプリケーション コンソールで、 **設定アイコン** > [開発者] > [アプリケーション] をクリックします。スコープを [Dell EMC OpenManage Integration] に変更します。 []
2. ServiceNow インスタンスで、ナビゲーション フィルターに [MID Server] と入力し、[JAR ファイル] モジュールを選択します。
3. [新規] をクリックします。
4. 右上隅で、[添付ファイルの管理] > [ファイルの選択] をクリックし、OpenManage Integration with ServiceNow のインストーラー ファイルを抽出したファイル システムに移動して、
Dell EMC OpenManage Integration 1.2 ServiceNow Connector.jar ファイルをアップロードします。
添付ファイルが正常にアップロードされたら、[[添付ファイル]] ダイアログ ボックスを閉じます。
5. インポートした connector.jar ファイルの名前を入力して、[送信] をクリックします。
6. ナビゲーション フィルターに [MID Server] と入力し、[サーバー] モジュールを選択します。
7. [[名前]] 列で、MID サーバーを選択し、次に [[選択した行のアクション]] にある [MID の再起動] を選択します。
MID サーバーが正常に再起動すると、そのステータスが [停止] から [起動] に変わります。

これで、MID サーバーに Dell EMC connector.jar ファイルが展開されます。

OpenManage Integration with ServiceNow のインストールが完了しました。OpenManage Enterprise および SupportAssist Enterprise からデバイス、イベント、サポート ケースを取得するには、OpenManage Integration に接続プロファイルを追加します。詳細については、サポート サイトにある『[Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow ユーザーズ ガイド](#)』を参照してください。

OpenManage Integration with ServiceNow へのアップグレード

この章では、OpenManage Integration with ServiceNow をアップグレードするための情報をユーザーに提供します。

トピック：

- [バージョン 1.0 から 1.2 への OpenManage Integration のアップグレード](#)
- [バージョン 1.1 から 1.2 への OpenManage Integration のアップグレード](#)

バージョン 1.0 から 1.2 への OpenManage Integration のアップグレード

以下は、OpenManage Integration with ServiceNow をバージョン 1.0 から 1.2 にアップグレードするための手順についての情報です。

- ServiceNow ユーザーに必要なユーザー権限があること。 [必要なユーザー権限](#)、p. 7 を参照してください。

ServiceNow インスタンスのアプリケーション スコープの変更に関する詳細については、次のサイトにある ServiceNow のマニュアルを参照してください。 <https://docs.servicenow.com/>


OpenManage Integration with ServiceNow (OMISNOW) をアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. `stop_jobs.js` スクリプトを実行して、デバイス同期およびイベント同期のスケジュール設定されたジョブを停止し、アラートルールに基づくアラートの自動作成を停止します。
 - a. スクリプトが含まれる `DELL_EMC_OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts` フォルダの解凍先であるファイル システムに移動します。
 - b. `stop_jobs.js` を開き、内容をコピーします。
 - c. ナビゲーションフィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] を選択します。
 - d. [スクリプトの実行] ボックスに `stop_jobs.js` の内容を貼り付け、スコープに [グローバル] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。
2. `upgrade_permissions_1.0-1.2.js` ファイルの内容をコピーし、バックグラウンド スクリプトで実行して、スコープを [グローバル] として選択します。
3. ServiceNow インスタンスで、ナビゲーションフィルターに [System Update Sets] と入力し、[取得したアップデート セット] を選択します。
[[取得したアップデート セット]] ページが表示されます。
4. [関連リンク] で、[XML からアップデート セットをインポートする] をクリックします。
5. [XML のインポート] ページで、[ファイルの選択] をクリックし、OpenManage Integration with ServiceNow バージョン 1.2 のインストーラー ファイルの解凍先であるファイル システムに移動して、`Dell_EMC_OpenManage_Integration_1_2_ServiceNow_UpdateSet.xml` アップデート セットを選択します。
6. [アップロード] をクリックします。
アップロードが正常に完了すると、アップデート セットが [[取得したアップデート セット]] ページにリストされ、状態列の下に [ロード済み] と表示されます。
7. [名前] 列で、[Dell EMC OpenManage Integration アップデート セット] をクリックし、右上隅にある [アップデート セットをプレビュー] をクリックします。
[[アップデート セットのプレビュー]] ダイアログ ボックスに進行状況が表示されます。アップデート セットのプレビュー中にエラーが発生した場合は、エラー ダイアログ ボックスを閉じます。[関連リンク] で、すべてのエラーを選択し、[選択した行のアクション] にある [リモート アップデート セットを許可] をクリックします。
アップデート セットのプレビューが正常に完了して、ダイアログ ボックスが閉じると、ステータスが [プレビュー済み] に更新されます。
8. ServiceNow インスタンスに対してアップデート セットの変更を確定するには、右上隅にある [アップデート セットを確定] をクリックします。


[[アップデート セットの確定]] ダイアログ ボックスに進行状況が表示されます。アップデート セットの確定が正常に完了して、ダイアログ ボックスが閉じると、アップデート セットの [状態] フィールドが [確定済み] に更新されます。

アップロードされたアップデート セットは、[システム アップデート セット] > [取得したアップデート セット] の下に一覧表示されます。アップデート セットの転送方法の詳細については、<https://www.docs.servicenow.com/>にある ServiceNow のマニュアルを参照してください。


9. テーブルに対して必要な権限を有効にするには、手動で行うか、スクリプト `upgrade_permissions_1.0_afterinstall_1.2_updateset.js` を実行します。スクリプトを使用して権限を有効にするには、次の手順を実行します。
 - a. スクリプトが含まれる `DELL_EMG_OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts` フォルダの解凍先であるファイル システムに移動します。
 - b. `upgrade_permissions_1.0_afterinstall_1.2_updateset` を開き、内容をコピーします。
 - c. ナビゲーション フィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] を選択します。
 - d. [スクリプトの実行] ボックスに `upgrade_permissions_1.0_afterinstall_1.2_updateset` の内容を貼り付け、スコープに [グローバル] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。
10. `upgrade_records_1.0-1.2.js` スクリプトを実行して、サーバー、イベント、OpenManage Enterprise 接続プロファイル、SupportAssist 接続プロファイル、OpenManage Enterprise with ServiceNow プロパティを移行します。
 - a. スクリプトが含まれる `DELL_EMG_OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts` フォルダの解凍先であるファイル システムに移動します。
 - b. `upgrade_records_1.0-1.2.js` を開き、内容をコピーします。
 - c. ナビゲーション フィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] の順に選択します。
 - d. [スクリプトの実行] ボックスに `upgrade_records_1.0-1.2.js` の内容を貼り付け、スコープに [グローバル] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。
11. アプリケーションのバージョンを表示するには、[システム アップデート セット] > [ローカル アップデート セット] に移動して、[アプリケーション] > [設定] > [リスト レイアウト] のメニュー アイコン (3 本の縦棒) をクリックします。レイアウト ウィンドウで [アプリケーション] を選択し、[選択したリファレンスを展開] フィールドをクリックして **バージョン フィールド** を選択し、[保存] をクリックします。
12. OMISNOW 1.0 のアップデート セットをバックアウトします。

 **メモ:** アップデート セットをバックアウトするには、ServiceNow のアプリケーション スコープを Dell EMC OpenManage Enterprise のアプリケーション スコープに変更する必要があります。

 - a. ナビゲーション フィルターで、[システム アップデート セット] > [ローカル アップデート セット] を選択します。
 - b. バージョン番号 [1.0.0] の [Dell EMC OpenManage Integration] レコードをクリックし、[[アップデート セット]] ページで [バックアウト] をクリックします。

 **メモ:** デフォルトでは、[アップデート セット] リスト ビューには、[バージョン] 列は表示されません。[バージョン] 列を表示するには、[アプリケーション] 列見出しの横にある 3 本の横棒アイコンをクリックし、[設定] > [リストのレイアウト] の順に選択します。[アップデート セット リストの設定] ページの [利用可能] セクションで、[アプリケーション] を展開し、[バージョン] を [選択済み] セクションに移動します。
 - c. [アップデート セットのバックアウト] ダイアログ ボックスで、[バックアウトを続行] をクリックします。

 **メモ:** バックアウト操作に失敗した場合は、[閉じる] をクリックします。バックアウトの問題をすべて選択し、[現在の状態を維持] をクリックします。[バック アウト] を再度クリックして、ServiceNow から OpenManage Integration を削除します。
13. OMISNOW 1.0 のアップデート セットを削除します。
 - a. ナビゲーション フィルターで、[システム アップデート セット] > [取得したアップデート セット] を選択します。
 - b. [[取得したアップデート セット]] ページで、バージョン [1.0.0] の [Dell EMC OpenManage Integration] を選択し、[選択した行のアクション] のリストから、[削除] をクリックします。
 - c. [確認] ダイアログ ボックスで、警告メッセージを確認し、[削除] をクリックします。
14. OMISNOW 1.0 の connector.jar ファイルを削除します。
 - a. ナビゲーション フィルターで、[MID サーバー] > [JAR ファイル] の順に選択します。
 - b. [[MID サーバーの JAR ファイル]] ページで、使用されている JAR ファイルを削除します。
15. OMISNOW 1.2 の Dell EMC connector.jar ファイルを Dell EMC OpenManage Integration のアプリケーション スコープにインポートして、MID サーバーを再起動します。jar ファイルをインポートする方法については、[MID サーバーへの OpenManage Integration connector.JAR の展開](#)、p. 12 を参照してください。

 **メモ:** アプリケーション選択ツールを更新して、アプリケーション スコープを Dell EMC OpenManage Integration として選択します。
16. アップグレードが正常に完了したら、ブラウザを更新します。

17. デバイスをモニターするには、テスト接続を実行し、接続プロファイルを送信して、OpenManage Enterprise インベントリー同期と SupportAssist Enterprise ケース同期を実行します。

バージョン 1.1 から 1.2 への OpenManage Integration のアップグレード

以下は、OpenManage Integration with ServiceNow バージョン 1.1 から 1.2 にアップグレードするための手順についての情報です

- ServiceNow ユーザーに必要なユーザー権限があること。[必要なユーザー権限](#)、p.7 を参照してください。

ServiceNow インスタンスのアプリケーション スコープの変更に関する詳細については、次のサイトにある ServiceNow のマニュアルを参照してください。<https://docs.servicenow.com/>

1. stop_jobs.js スクリプトを実行して、デバイス同期およびイベント同期のスケジュール設定されたジョブを停止し、アラートルールに基づくアラートの自動作成を停止します。
 - a. スクリプトが含まれる DELL_EMC_OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts フォルダーの解凍先であるファイル システムに移動します。
 - b. stop_jobs.js を開き、内容をコピーします。
 - c. ナビゲーション フィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] を選択します。
 - d. [スクリプトの実行] ボックスに stop_jobs.js の内容を貼り付け、スコープに [グローバル] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。
2. ServiceNow インスタンスで、ナビゲーション フィルターに [System Update Sets] と入力し、[取得したアップデートセット] を選択します。
[[取得したアップデートセット]] ページが表示されます。
3. [関連リンク] で、[XML からアップデートセットをインポートする] をクリックします。
4. [XML のインポート] ページで、[ファイルの選択] をクリックし、OpenManage Integration with ServiceNow バージョン 1.2 のインストーラー ファイルの解凍先であるファイル システムに移動して、Dell_EMC_OpenManage_Integration_1_2_ServiceNow_UpdateSet.xml アップデートセットを選択します。
5. [アップロード] をクリックします。
アップロードが正常に完了すると、アップデートセットが [取得したアップデートセット] ページにリストされます。状態列の下に**ロード済み**ステータスとなっているアプリケーションを選択します。
6. [名前] 列で、[Dell EMC OpenManage Integration アップデートセット] をクリックし、右上隅にある [アップデートセットをプレビュー] をクリックします。
[[アップデートセットのプレビュー]] ダイアログ ボックスに進行状況が表示されます。アップデートセットのプレビュー中にエラーが発生した場合は、エラー ダイアログ ボックスを閉じます。[関連リンク] で、すべてのエラーを選択し、[選択した行のアクション] にある [リモートアップデートを許可] をクリックします。
アップデートセットのプレビューが正常に完了して、ダイアログ ボックスが閉じると、ステータスが [プレビュー済み] に更新されます。
7. ServiceNow インスタンスに対してアップデートセットの変更を確定するには、右上隅にある [アップデートセットを確定] をクリックします。
[[アップデートセットの確定]] ダイアログ ボックスに進行状況が表示されます。アップデートセットの確定が正常に完了して、ダイアログ ボックスが閉じると、アップデートセットの [状態] フィールドが [確定済み] に更新されます。
アップロードされたアップデートセットは、[システム アップデートセット] > [取得したアップデートセット] の下に一覧表示されます。アップデートセットの転送方法の詳細については、<https://www.docs.servicenow.com/>にある ServiceNow のマニュアルを参照してください。

アップグレード中にアプリケーションのプロパティを変更するには、次の手順を実行します。

ServiceNow インスタンスを 1.1 から 1.2 にアップグレードした場合、アプリケーションのプロパティは**デフォルト**のままとなります。プロパティを切り替えるには、次の手順を実行します。

- a. 1.1 updateset ServiceNow インスタンスのプロパティ テーブルに移動します。
 - b. [名前] のメニュー バーを右クリックして、[エクスポート] > [XML] に移動します。
 - c. ディスプレイ ウィンドウから [ダウンロード] をクリックして、ファイルを PC にローカルに保存します。
 - d. プロパティ テーブルに移動し、[名前] のメニュー バーを右クリックして [XML をエクスポート] を選択します。
- ① メモ:** XML ファイルをインポートする必要があるのは、ServiceNow 1.2 インスタンスの updateset がロードされ、コミットされている場合のみです。プロパティ ファイルをインポートする前に必ず [upgrade_permissions_1.1-1.2.js](#) を提供してください
- ① メモ:** プロパティ ファイルは、1.1 ServiceNow updateset インスタンスのプロパティ ファイルの設定に変更がある場合にのみインポートできます。

- e. 保存された XML ファイルの場所を選択して、[**アップロード**] をクリックします。
 - f. プロパティの設定ファイルが正常に更新されました。
8. テーブルに対して必要な権限を有効にするには、手動で行うか、スクリプト `upgrade_permissions_1.1-1.2.js` を実行します。スクリプトを使用して権限を有効にするには、次の手順を実行します。
- a. スクリプトが含まれる `DELL_EMC_OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts` フォルダーの解凍先であるファイルシステムに移動します。
 - b. `upgrade_permissions_1.1-1.2.js` を開き、内容をコピーします。
 - c. ナビゲーションフィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] を選択します。
 - d. [スクリプトの実行] ボックスに `upgrade_permissions_1.1-1.2.js` の内容を貼り付け、スコープに [グローバル] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。
9. `upgrade_records_1.1-1.2.js` スクリプトを実行して、サーバー、イベント、OpenManage Enterprise 接続プロファイル、SupportAssist 接続プロファイル、OpenManage Enterprise with ServiceNow プロパティを移行します。
- a. スクリプトが含まれる `DELL_EMC_OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts` フォルダーの解凍先であるファイルシステムに移動します。
 - b. `upgrade_records_1.1-1.2.js` を開き、内容をコピーします。
 - c. ナビゲーションフィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] の順に選択します。
 - d. [スクリプトの実行] ボックスに `upgrade_records_1.1-1.2.js` の内容を貼り付け、スコープに [Application/x_310922] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。
10. OMISNOW 1.1 の `connector.jar` ファイルを削除します。
- a. ナビゲーションフィルターで、[MID サーバー] > [JAR ファイル] の順に選択します。
 - b. [[MID サーバーの JAR ファイル]] ページで、使用されている JAR ファイルを削除します。
11. OMISNOW 1.2 の Dell EMC `connector.jar` ファイルを Dell EMC OpenManage Integration のアプリケーション スコープにインポートして、MID サーバーを再起動します。jar ファイルをインポートする方法については、[MID サーバーへの OpenManage Integration connector.JAR の展開](#)、p. 12 を参照してください。
12. デバイスをモニターするには、テスト接続を実行し、接続プロファイルを送信して、OpenManage Enterprise インベントリー同期と SupportAssist Enterprise ケース同期を実行します。

OpenManage Integration with ServiceNow の アンインストール

ServiceNow ユーザーに必要なユーザー権限があること。[必要なユーザー権限](#)、p.7 を参照してください。

ServiceNow のアプリケーションの範囲を次のように変更する必要があります。

- (オプション) イベント、アラート、インシデントなどの OpenManage Integration のレコードを削除するグローバルなアプリケーションの範囲。
- OpenManage Integration を削除するための Dell EMC OpenManage Enterprise アプリケーションの範囲。

ServiceNow インスタンスのアプリケーションの範囲の変更に関する詳細については、次のサイトにある ServiceNow のマニュアルを参照してください。<https://www.docs.servicenow.com/>

OpenManage Integration with ServiceNow (OMISNOW) をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーションフィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] を選択します
2. [スクリプトの実行] ボックスに `stop_jobs.js` の内容を貼り付け、スコープに [グローバル] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。
3. テーブルに対して必要な権限を有効にするには、手動で行うか、スクリプト `uninstall_deletePermissionScript.js` を実行します。スクリプトを使用して削除権限を有効にするには、次の手順を実行します。
 - a. スクリプトが含まれる `DELL_EMCM OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts` フォルダの解凍先であるファイルシステムに移動します。
 - b. `uninstall_deletePermissionScript.js` を開き、内容をコピーします。
 - c. ナビゲーションフィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] を選択します。
 - d. [スクリプトの実行] ボックスに `uninstall_deletePermissionScript.js` の内容を貼り付け、スコープに [グローバル] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。

メモ: テーブルに対する削除権限を付与するには、`uninstall_deletePermissionScript.js` スクリプトを [グローバル] スコープで実行します。

4. スクリプトを実行します `uninstall_DeleteAllRecords.js`
 - a. スクリプトが含まれる `DELL_EMCM OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts` フォルダの解凍先であるファイルシステムに移動します。
 - b. `uninstall_DeleteAllRecords.js` を開き、内容をコピーします。
 - c. ナビゲーションフィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] を選択します。
 - d. [スクリプトの実行] ボックスに `uninstall_DeleteRecords.js` の内容をコピーし、[Global] スコープで実行します。

メモ: 削除されたレコードを追跡するには、アプリケーション ログでステータスを表示します。

次の手順に進む前に、削除するレコードが残っていないことを確認するメッセージが OMISNOW アプリケーション ログに表示されるまで待ちます。

5. スクリプトを実行します `uninstall_deleterecords.js`
 - a. スクリプトが含まれる `DELL_EMCM OpenManage_Integration_ServiceNow_Background_Scripts` フォルダの解凍先であるファイルシステムに移動します。
 - b. `uninstall_deleterecords.js` を開き、内容をコピーします。
 - c. ナビゲーションフィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] を選択します。
 - d. [スクリプトの実行] ボックスに `uninstall_deleteRecords.js` の内容を貼り付け、スコープに [グローバル] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。
6. アップデート セットをバックアウトします。

メモ: アップデート セットをバックアウトするには、ServiceNow のアプリケーション スコープを Dell EMC OpenManage Enterprise のアプリケーション スコープに変更する必要があります。

 - a. ナビゲーションフィルターで、[システム アップデート セット] > [ローカル アップデート セット] を選択します。
 - b. [Dell EMC OpenManage Integration] レコードをクリックして、[[アップデート セット]] ページで、[バックアウト] をクリックします。

c. [アップデートセットのバックアウト] ダイアログ ボックスで、[バックアウトを続行] をクリックします。

メモ: バックアウト操作が失敗した場合は、すべてのバックアウトの問題を選択して [現在の状態] をクリックする、または `uninstall_SelectAction.js` スクリプトをスコープを [グローバル] に設定して実行します。[バックアウト] を再度クリックして、ServiceNow から OpenManage Integration を削除します。

7. [バックアウト アプリケーション] を削除します。

バックアウト アプリケーションを削除するには、次の手順を実行します。

a. ナビゲーション フィルターで、[Retrieved Update Set] と入力し、[バックアウト] アプリケーションを削除します。

8. `uninstall_backout.js` スクリプトを実行して、バックアウトしたアプリケーションを削除します。

a. スクリプトが含まれる `DELL EMC OpenManage Integration ServiceNow Background Scripts` フォルダーの解凍先であるファイルシステムに移動します。

b. `uninstall_backout.js` を開き、内容をコピーします。

c. ナビゲーション フィルターで、[システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] を選択します。

d. [スクリプトの実行] ボックスで、`uninstall_backout.js` のコンテンツをコピーし、スコープで [グローバル] を選択し、[スクリプトの実行] をクリックします。

メモ: OpenManage Integration with ServiceNow をアンインストールすると、[アップデートセットをプレビュー] と [アップデートセットを確定] 操作は、新規インストールよりも長くかかります。

OpenManage Enterprise の接続プロファイル、SupportAssist Enterprise の接続プロファイル、OpenManage Enterprise から取得したサーバー詳細が、ServiceNow インスタンスから削除されます。

追加リソース

表 3. 追加リソース

文書	説明	入手先
<i>Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow ユーザーズガイド</i>	OpenManage Integration with ServiceNow の使用方法とトラブルシューティングに関する情報が記載されています。	1. Dell.com/OpenManageManuals にアクセスします。 2. [Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow] をクリックし、必要なアプリケーションのバージョンを選択します。
<i>Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow リリースノート</i>	OpenManage Integration with ServiceNow の新機能、既知の問題、回避策に関する情報が記載されています。	3. [マニュアルおよび文書] をクリックして、該当のドキュメントにアクセスします。
<i>Dell EMC OpenManage Enterprise ユーザーズガイド</i>	OpenManage Enterprise のインストールおよび使用方法に関する情報が記載されています。	1. Dell.com/OpenManageManuals にアクセスします。 2. [Dell EMC OpenManage Enterprise] をクリックし、必要なアプリケーションのバージョンを選択します。
<i>Dell EMC OpenManage Enterprise および OpenManage Enterprise - Modular エディション RESTful API ガイド</i>	Representational State Transfer (REST) API を使用した OpenManage Enterprise の統合に関する情報、および一般的なタスクを実行するための REST API の使用例が記載されています。	3. [マニュアルおよび文書] をクリックして、該当のドキュメントにアクセスします。
<i>Dell EMC SupportAssist Enterprise ユーザーズガイド</i>	SupportAssist Enterprise のインストール、設定、使用およびトラブルシューティングに関する情報を提供します。	Dell.com/ServiceabilityTools
<i>ServiceNow のマニュアル</i>	ServiceNow アプリケーションの使用法の詳細について参照してください。	https://www.docs.servicenow.com/

Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス

直接リンクを使用して Dell EMC サポート サイトに移動するか、検索エンジンを使用して、一連のシステム管理ツールに関連するサポート コンテンツにアクセスします。

- 直接リンク：
 - Dell EMC エンタープライズ システム管理および Dell EMC リモート エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/esmmanuals>
 - Dell EMC 仮想化ソリューション：www.dell.com/virtualizationsolutions
 - Dell EMC OpenManage：<https://www.dell.com/openmanagemanuals>
 - iDRAC：<https://www.dell.com/idracmanuals>
 - Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement>
 - Dell EMC Serviceability Tools：<https://www.dell.com/serviceabilitytools>
- Dell EMC サポート サイト：
 1. <https://www.dell.com/support> にアクセスします。
 2. [すべての製品の参照] をクリックします。
 3. [すべての製品] ページで [ソフトウェア] をクリックして、次に必要なリンクをクリックします。
 4. 必要な製品をクリックして、必要なバージョンをクリックします。

検索エンジンを使用する場合は、検索ボックスにドキュメントの名前とバージョンを入力します。

Dell EMC へのお問い合わせ

Dell EMC では、オンラインおよび電話によるサポートとサービスオプションをいくつかご用意しています。これらのサービスは国および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。

メモ: アクティブなインターネット接続がない場合は、ご購入時の納品書、出荷伝票、請求書、または Dell EMC 製品カタログで連絡先をご確認いただけます。

Dell EMC のセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. Dell.com/support にアクセスします。
2. ページの右下にあるリストで、国または地域を選択します。
3. [[サポートへのお問い合わせ]] をクリックして、該当するサポートリンクを選択します。